

受付No.

2026年度 アートによる地域振興助成（一般）

公益財団法人 福武財団 理事長 福武英明殿

募集要項に則り、本応募用紙に記載した通り、標記助成に応募いたします。

<団体プロフィール>

団体名	医療法人社団保順会				
住所	〒355-0071 埼玉県東松山市新郷29-3				
団体区分	その他	スタッフ数	35 名		
代表者氏名 (カナ)	ツジ モリフミ	役職	理事長	年代	70代
代表者氏名	辻 守史				
団体URL1	https://tsuji-hojun-clinic.com				
団体URL2	https://note.com/crossplay/				

<申請者・実務担当者> ※団体所在地と同じ場合は「同上」*申請者には、助成に関する諸手続きの連絡担当者の名前を記入してください。

申請者氏名 (カナ)	フジワラ ケンタ	役職	クロスプレイ東松山 企画者、コーディネーター	年代	40代前半
申請者氏名	藤原 顕太				
連絡先 e-mail	f.kenta@bench-p.com	電話番号	090-9013-5563		
住所 (書類の送付先)	〒355-0076 埼玉県東松山市下唐子1574-1 デイサービス楽らく				

<プロジェクトリーダーの略歴> ※アートプロジェクト等の運営経験や当時の役割を記載してください。

氏名 (カナ)	タケダ ナツコ	役職/肩書	医療法人社団保順会 常務理事/デイサービス楽らく 施設長	年代	40代後半
氏名	武田 奈都子				
年 (西暦) 月	略歴 (活動内容)				
2000年3月	ラバンセンター ロンドンISPコース修了				
2001年3月	玉川大学文学部芸術学科 芸術表現コース卒業				
2001年4月	～2006年3月 パフォーマンスシアター水と油制作				
2006年4月	～2009年3月 フリーランスの舞台制作者として公共劇場、舞台芸術祭の企画制作に携わる				
2009年4月	～2012年3月 フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局				
2012年5月	医療法人社団保順会 理事就任(2019年1月より常務理事)				
2017年12月	同法人内に文化事業「ひがしまつやまぐらしの楽校」を立ち上げ。2018年2月にかけて3プログラムを実施				
2021年3月	社会福祉士取得				
2022年4月	同法人が運営する通所介護施設「デイサービス楽らく」施設長に就任				
2022年6月	移転新築した「デイサービス楽らく」開所。「クロスプレイ東松山」プロジェクト開始				

<福武財団の助成実績>

助成を受けて活動した年度
2022年度, 2023年度, 2024年度, 2025年度

<外部協力者の状況>

氏名	年代	組織名	所在地 (市町村まで)	協力内容 (できるだけ具体的に)
武田知也	40代前半	一般社団法人ベンチ 代表理事	埼玉県川越市	プロジェクトの共同企画者
岡村幸宣	50代前半	原爆の図丸木美術館 学芸員	埼玉県東松山市	文化祭での連携、滞在アーティストへの助言相談、共同事業の検討
鈴木和幸	50代前半	公益財団法人東松山文化まちづくり公社 主任	埼玉県東松山市	地域住民向けワークショップでの連携、文化祭等の事業連携
長津結一郎	40代前半	九州大学芸術工学院 准教授 (2027年4月より東京藝術大学に異動予定)	福岡県糸島市	評価プログラムの伴走支援、監修
室田明美	70代	子ども文化村	埼玉県東松山市	地域住民向けワークショップでの連携

<活動内容・事業計画について>

表現手法	アーティスト・イン・レジデンス
活動テーマ	福祉
事業名	クロスプレイ東松山
2026年度の活動期間	2026/04/01 ~ 2027/03/31
活動に従事するスタッフ数	5名

1. 団体の活動の概要

<p>高齢者福祉施設を拠点としたケアとアートプロジェクト。一般社団法人ベンチと共同実施。多様なアーティストが高齢者や認知症当事者と共に行う芸術文化事業を展開する。福祉・医療・文化・教育等の地域の諸機関・住民と連携することで、関わる高齢者のより良い支援につなげると同時に、老いや認知症の文化的な豊かさや、ケアによる人間らしさの再発見といった多様な側面について、地域の様々な人々と共に考える場を創出する。</p> <p>中長期的には、医療・福祉機関が文化活動を通じて地域共生のハブとなるモデルとし、同取り組みを他地域にも波及していくことで、高齢になっても一人ひとりの尊厳と意思が尊重される、文化的な地域社会の実現を目指す。</p>

2. これまでの活動の沿革

申請事業の活動年数	2～4年
年（西暦） 月	活動内容
2022年6月	移転新築した「デイサービス楽らく」開所。アソシエイト・アーティストが滞在開始し、プロジェクト始
2022年10月	第一期公募アーティストとして3名が活動開始（応募者13名）
2023年1月	白神もこの舞台「どこ吹く風のあなた、ここに吹く風のまにまに」を楽らく、東松山市民文化センターで上演
2023年2月	吉田尚平・和古による写真展「Love letter to...」を楽らく、コメヤギャラリーで開催
2023年9月	第二期公募アーティストとして6名が活動開始（応募者20名）
2024年1月	アサダワタルによる音楽プロジェクト「また明日も歌ったような」が日本音楽健康協会「音健アワード」入賞
2024年5月	報告書「クロスプレイ東松山2022 / 2023 ケアとアートが交差する場で起きていること」公開
2024年11月	第三期公募アーティストとして3名が活動開始（応募者14名）
2025年3月	ハイドロプラスト「ケアと演技」デイサービス楽らく公演
2025年8月	原爆の凶丸木美術館との連携事業「やまんば、かい。」を同美術館で上演

3. 活動エリアについて

活動エリア	埼玉県 東松山市、比企郡
活動エリアの特色 (歴史、文化、地域性、魅力など)	埼玉県中央部、都心から1時間前後の立地。ベッドタウンの都市部と高齢化が進む郊外を抱える。事業の拠点となるデイサービス楽らくがある東松山市唐子地区周辺は、戦時中は土地接収により陸軍飛行場が整備されたが、使用されず終戦を迎え、その後空いた土地には入植が行われた。さらに関越自動車道東松山インター建設に伴い工業団地として開発されるなど、目まぐるしく土地の所有者が移り変わった場所である。目立った観光地はないが、近隣には、原爆の凶丸木美術館、comeya gallery、子ども文化村など民間主体で独自の文化活動を行う人や団体が多い。首都圏等から一定の距離がある、外縁部ならではの環境とも言えるだろう。
活動エリアの課題 (まず初めに、活動エリアにおける課題を簡潔にご記載ください。続けて、その課題の背景や詳細について、できるだけ具体的にご記入ください。)	唐子地域は市の郊外に位置しており、高齢化が進んでいる。バスは本数が少なく休日運休のため、交通インフラは十分とは言えない。そのため、高齢者の外出機会が限られ、不便を感じる声が多く聞かれる。年齢を重ねるにつれて、地域内で近所の人と交流する機会が減ったと感じる人も多く、交流の場の創出が求められている。また、住民の入れ替わりが進む地域であり、昔からの住民と新たに移り住んだ人との間にコミュニティの隔たりが存在している。加えて、地域内には個人商店等が非常に少なく、異なるコミュニティや世代間の交流が生まれる場が不足している。工業団地があることで海外ルーツの移住者も存在するが、地域内での交流機会は乏しい。
貴団体の地域に対するミッション (活動の目的)	住まう地域において、生涯にわたり健康で文化的な生活を送ることは、生きていく上で欠かせないことであり、人間の持つ普遍的な権利である。保順会では「Cure×Care×Culture」という法人のコンセプトをもとに、医療・福祉をサービスとしてのみでなく、文化としても捉えており、地域に住む人々が、年齢や障害にかかわらず文化的に暮らすことができる地域づくりへの貢献をミッションとしている。またデイサービス楽らくでは「楽に、楽しく、その人らしく」というスローガンに基づき、個性性を尊重した対人支援を行うことで、想像力のあるケアの場を生み出すことを目指している。

7. 2026年度プロジェクト評価の観点や指標をどのように設定しますか。

定性（状態的な目標）、定量（数値的目標）をお書きください。

これまでの実践でクロスプレイ東松山にはプロジェクトの価値・方向性が複数あることが明確化したため、これらを総合的に評価する必要がある。評価を実施するに当たっては、各方向性を別々のものとして捉えるだけでなく、相互の関係（協調・対立構造）に関しても加味する必要がある。また評価の実施にあたっては他の団体とも連携し、相互のピアレビュー評価なども一部取り入れていきたい。

①福祉施設におけるケアの向上

定性評価：利用者の満足度、施設利用者の社会参加の場が作られることによる自己肯定感の向上、職員のケアに対する意識の変化、他の職員・利用者との関係への影響

定量評価：アーティストと交流した高齢者 60名以上、表現活動に共同参加した高齢者、職員30名以上

②アーティスト／作品と社会変化

定性評価：アーティストが滞在で受けた変化（価値観・ステップアップになったと感じられた点等）、作品の社会的評価

定量評価：クロスプレイ東松山を機に作られた作品の鑑賞者数：200名以上

③地域づくり

定性評価：地域にケア×アートの取り組みがあることによる、住民の意識変化

定量評価：活動に参加した地域住民100名以上

8. 2026年度の翌年以降の、地域に持続的に関わる中期計画と将来ビジョンをお書きください。

※一般申請者は、その計画・ビジョンの展開がこれまでの活動の積み重なりどのように紐づいているかと、その展開に事業や運営体制をどのように反映していくかについてもお書きください。

①ケアと文化の交流拠点づくり

多様な人・世代の相互理解を促す事業を展開し、対話と交流を育む地域共生の場をつくる。

・「クロスプレイ倶楽部（仮称）」を地域住民も参加できる形に拡充し、対話・交流の拠点とする。（27年～）

・同部の参加者が主体となった発表の場を創出。（28年～）

・楽らくの休業日を活用し、文化活動・地域交流を中心とした開所日を設計。移動支援を含め、高齢者をはじめ地域住民が参加できる仕組みを整える。（29年～）

②事業の地域展開

ケアとアートを軸に多様な団体と連携し、地域内外で事業を展開する。

・原爆の図丸木美術館の地域魅力発信事業に参画し、東松山地域でのアーティスト滞在事業を推進。（27年～）

・県内の福祉・文化団体と協働し、「クロスプレイ埼玉（仮称）」を立ち上げる。（27年～）

連携予定：NPO法人のらんど、社会福祉法人みぬま福祉会

・子ども文化村、市民文化センター、comeya gallery等と連携し、アーティストが関わる交流の場づくりを行う。（28年度～）

③ケア×アートの価値の提案

アーティストの関わりは芸術療法にとどまらず、福祉現場の枠組みに新たな問いをもたらす。本人の語りに寄り添う「ナラティブ・アプローチ」を応用し、福祉に生かせる新しいモデルを検討する。

・アーティスト滞在による創造的価値と影響を研究領域と連携して検証。（27年～）

連携先：石井礼花（東京医科大学）、川久保ジョイ

・ケア現場のコーディネーターによる研究会を発足し、調査・意見交換を通じて持続可能な事業のあり方や社会的処方の実践を提言する。（27年～）

連携先：唐川恵美子（ほっちのロッジ）、荒川真由子（大内病院）

9. 2026年度以降、複数年の助成を希望していますか？

いいえ

<活動の様子>



「ケアと演技」デイサービス楽しく職員向け上演。終演後に対話型鑑賞を実施し、職員がケアへの考えを深めた



公募アーティストとほ氏の滞在中、活動に興味を持たれた利用者が、一緒に創作をしながら語らう様子



菅原直樹氏による小学校での演劇ワークショップ。演劇づくりを通じて認知症を学びながら高齢者と交流する

